

◎ 表示状態の説明

表示により、現在どの状態になっているのかを判断する材料にして下さい。

		ページ数
0 12	(MON) => CH表示状態 (左端の数字はモードをあらわす)	1
o 6 8	=> "HOLD+6" と "HOLD+8" がセットされている	6
h 1	=> "HOLD+1" の2段設定中 ("H" の表示に着目)	7
h SUB	=> "HOLD+4" の2段設定中	8
-	=> 目覚まし時計の時間入力 受付中 (誤動作と間違えないように注意!)	8
0-3	=> 目覚まし時計 動作中 (同時に "S-CH" のランプが点滅)	8
ooooo	=> ストップウォッチ	9
-999-	=> フィーバーゲーム	9
PR_	=> 拡声器機能動作中	9
CoPY-	=> "HOLD+HOLD" の2段設定中	5
CHSEt	=> "CHメモリー" 受付中	3
SEt--	=> "CHメモリー" 呼び出し中	3
SEt-4	=> "CHメモリー4" 受け付け、または呼び出し	3
d-AAAA	=> 自局の免許番号 表示中	4
n-	=> 免許番号 入力中	4
n-AAAA	=> 相手の免許番号 表示中	4
c-AAAA	=> 相手の免許番号 吸い取り中	4
o CUt	=> タイマーカット	9
o t-ON	=> タイマー動作	9
o ALL	=> 全群番号待ち受け (リセット状態でも表示)	9
oN-ALL	=> 待ち受け以外の全群番号待ち受け (着信拒否) (リセット状態でも表示)	10
o FUN	=> 通常待ち受け (リセット状態では表示しない)	10
oR-CUt	=> この表示が出た時は、相手からの呼び出しがかからなくなります。 もし表示が出た時は、"HOLD+CALL" で解除できます。	
dUP	=> セミデュプレックス動作中 (リセット状態でも表示)	10
r-CUt	=> 切断信号を受信した (10秒間)	11
CUt	=> 強制リセット動作中 (送信し終わるまで表示)	11
r c = 3 = o	=> リザーブ操作で "3" を選択中 (すぐに次の群番表示に切り変わる)	15
r 5 4 3 2 1	=> リザーブ操作でメモリーされている群番号を表示中 (3秒間表示)	15

◎ HOLDの機能一覧表

HOLD + 1 + 1	= ON → スキャンスピード低速	OFF → スピード高速
HOLD + 1 + 2	= ON → 全モードスキャン	OFF → 単一モードスキャン
HOLD + 1 + 3	= ON → メモリスキャン	OFF → 順番CHスキャン
HOLD + 1 + 4	= ON → 空きCHスキャン	OFF → 使用CHスキャン
HOLD + 2 + 1	= ON → 全モード待ち受け	OFF → 単一モード待ち受け
HOLD + 2 + 2	= ON → スペシャルサーチ	OFF → 普通のサーチ
HOLD + 2 + 3	= ON → リザーブ機能ON	OFF → リザーブOFF
HOLD + 2 + 4	= ON → 全群番号リザーブ	OFF → 一致した群番だけリザーブ
HOLD + 3 + 1	= ON → PTTリコール1分	OFF → PTTリコールなし
HOLD + 3 + 2	= ON → PTTリコールいつも	OFF → 1分以上握ってれば
	= ON → 1分に1回	OFF → 3分に1回
HOLD + 3 + 3	= ON → タイマーリコール	OFF → 普通のリコール
HOLD + 3 + 4	= ON → 多群番リコール	OFF → 普通のリコール
HOLD + 4 + 1	= 目覚まし時計機能	
HOLD + 4 + 2	= ストップウォッチ	
HOLD + 4 + 3	= フィーバーゲーム	
HOLD + 4 + 4	= 拡声器	
HOLD + 5	= ON → ATIS信号カット	OFF → ATIS信号出る
HOLD + 6	= ON → 群番解読	OFF → 群番解読なし
HOLD + 7	= ON → プライオリティあり	OFF → プライオリティなし
HOLD + 8	= ON → 解読一発モニターあり	OFF → 解読一発モニターなし
HOLD + 9	= ON → 制御信号妨害	OFF → 妨害しない
HOLD + C	= ON → CHロック	OFF → ロック解除
HOLD + M	= ON → タイマーカット	OFF → タイマー動作
HOLD + HOLD + 0 から 9	= 群番号コピー	
HOLD + HOLD + HOLD	= 免許番号吸い取り	
HOLD + HOLD + MON	= 自局の免許番号表示	
HOLD + HOLD + CALL	= 相手の免許番号表示	
HOLD + MON	= 全群番号待ち受け → 着信拒否 (待ち受け設定中、群番号免許番号のみ) → → 待ち受け群番号だけ	
HOLD + MIC END	= ON → セミデュプレックス	OFF → シンプルックス (ノーマル)
HOLD + END	= HOLD機能設定途中からの設定操作キャンセル	

◎ M キーの機能一覧表

M + 0 から 9	= メモリーの指定及び呼び出し
M + HOLD + 0 から 9	= チャンネルメモリーの書き込み
M + MON + 0 から 9	= チャンネルメモリーの呼び出し
M + CALL + 0 から 9	= メモリー0からメモリー9の待ち受け設定、解除
M + CALL + M	= L-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + HOLD	= B-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + CALL	= A-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + MIC REMOTE	= H-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + MIC SHIFT	= P-CODEの待ち受け設定、解除
M + CALL + MIC END	= E-CODEの待ち受け設定、解除
M + MIC REMOTE + 12回のキー入力	= 免許番号の書き換え
M + MIC SHIFT	= 強制リセット
M + MIC END	= 送信、受信レベル切り替え

◎ MON キーのCH指定方法

MON リセットの場合は、前回使用のCH モニターの場合は、スキャン
M + 0 から 9 + MON = メモリーCHの呼び出し

▲ C + 0 から 9 の数字キー2桁(3桁) + MON = キー入力のCHへ固定

[例] 20チャンネルの場合

C + 2 + 0 + MON = 20CHへ固定(モニター)

▲ C + 1 + 0 から 9 の数字キー2桁 + MON = キー入力のCHへ固定

[例] 110チャンネルの場合

C + 1 + 1 + 0 + MON = 110CHへ固定(モニター)

◎ CALL キーの機能

リセット状態では、自動呼び出し その他の状態では、CH表示

SSバイキン・マンチャンネルMAPSS

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
00	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107
29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121
43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135
57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80				
150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	となっています。			

GV バイキンマン

27104

本書は、GVバイキンマンを初めて使用される方のためにかかれています。

なお、群番号の設定や、メモリーのさせ方、一部のディスプレイの意味などは、ノーマルの取り扱い説明書と同一ですので、そちらもあわせて御覧下さい。

本機にはノーマル機能はありません。ただし、他人に使用されないようにするため、死んだふり機能があります。死んだふり機能の状態では、表示、キー受付音などは、まったく作動しません。PTT、モニターがききませんので、無線機としては使用できなくなります。同時に、安心ロックがかかります。安心ロックとはGⅢだじょぶだあ〜と同様に、暗証番号を知っている人だけがスペシャルを使用できるようにする機能です。暗証番号がわかりませんと、スペシャル状態にできませんので忘れないようにしてください。

1. 最初にスペシャルモードにするのは。

電源を入れて群番号が表示されれば、無線機として使用できる状態にすでになっています。群番号が表示されず真っ暗の場合は、かまわず暗証番号を打ち込んでください。この時、表示、動作音とも反応がありませんので、間違えず、ゆっくりキーを押してください。

最初に **C** のキーを押す必要はありません。暗証番号の数字キーを直接押して行って下さい。

5桁入力し終わりますと **0-5E-E-** の表示が出ますので、以降は無線機として、動作できます。

途中で打ち間違えた場合、最初の桁から打ち直してください。

★ 暗証番号を指定する場合は販売店にご相談下さい。

この時、ATIS ROMカートリッジが挿入されていれば、自局の免許番号はその免許番号になります。

2. 安心ロックをセットする時は。

スペシャル状態を他人に知られたくない場合、セットしますと、無線機としての機能を停止します。暗証番号がわからないと、無線機として動作しなくなります。

本体パネルのキーを同時に4つ以上押します
なお、HOLD + REMOTEでは、スペシャルモードの解除はできません。もし間違えて押してしまった時は、HOLD + REMOTEをもう一度押して下さい。
(通常の通話が出来ようになります。)

=> 表示が真っ暗になり、以降は動作しなくなる押すキーはどれでも構いません。

3. 最初から、使用できるスペシャル機能。

1. モニターに移る際、CH表示をします。例、**1 32** ダウンモードの32ch

2. モニターから、PTTを押すことにより、割り込み送信できます。

3. 5分、1分の通話制限はタイマーカットの動作にかかわらずありません。ただし、相手の局が通話制限状態に

なったとき、相手局だけリセットしてしまわないように、表示パネルの **1-MIN** **LOCAL** のランプに注意してください。

4. リセット、モニター、レディ、送信中のどの状態からでも、メモリー、群番号の打ち代えができます。

5. マイクのキーで、CHのアップ、ダウン、モニターサーチ、モードの変更、メモリーの切り換え、連続リコール、などの多彩な機能が実現できます。熟練すれば、本体にはほとんど触れなくてすむでしょう。

4. 特殊文字入力機能。(0から9の数字以外の特殊文字番号が入力できます。“C”に続く次のキーです。)

CALL = R HOLD = → b M = → C

マイクのREM = → d マイクのSFT = → E マイクのEND = → F

例 GBの真つ黒群番号 C + CALL キーを5回 = → o RRRRR

- リセット状態の時、マイクのリモートキーにより、すべてのメモリー、及び特殊群コードの呼び出しができます。呼び出される順序は、メモリー0 ⇒ 1 ⇒ 2 ⇒ . . . 9 ⇒ -A-cod ⇒ -D-cod ⇒ -L-cod ⇒ -H-cod ⇒ -P-cod ⇒ -E-cod ⇒ P-CODE ⇒ H-CODE ⇒ L-CODE ⇒ A-CODE ⇒ B-CODE ⇒ E-CODE ⇒ E-CODE ⇒ 0000 (ゼロファイブ) の順です。0000 (ゼロファイブ) は、メモリーされていなくても、リセット中は呼び出しを行うことができます。
- 呼び出し、着信の時、群番号とCHを交互に表示します。

5. チャンネルの確認 (モニター、レディ、送信中にCHの確認ができます。CALL キーを押すと表示されます。)

6. メモリー群番号自動呼び出し機能 (リセット状態の時、CALLに続いてキーを押すことにより、自動呼び出しができます。)

CALL + 1M から 0 までのキー = → そのメモリーされている群番号で呼び出します。

CALL + C	= →	c00000	CQ (ZERO5)
CALL + CALL	= →	cR-cod	Aコード (F6006)
CALL + HOLD	= →	cb-cod	Bコード (F0009)
CALL + M	= →	cL-cod	近接車通信用 (F0005)
CALL + REMOTE	= →	cH-cod	高速道路通信用 (F0003)
CALL + SHIFT	= →	cP-cod	交通情報用群番号 (F0000)
CALL + マイクEND	= →	cE-cod	緊急通信用 (FF000)

7. メモリー、待ち受けセット機能 (すべてのメモリー、特殊群番号、免許番号の待ち受けセット、解除が独立して行えます。)

Mキーに続いて、CALLキーを押します。待ち受けのセット、解除のモードになります。

M + CALL = → 4 56789 例として、左記のように表示されれば、4から9までのメモリー群番号が待ち受けセットとなっています。

この状態から1から9までの数字キーを押すと、待ち受け設定の数字ランプが点燈、消燈を交互に繰り返します。基本的にはノーマルの設定と一緒ですので、ノーマルの説明書もあわせて参照してください。また、常時待ち受けが確認できるように、同時にパネル左端の“<”マークと“×---+”マークも点燈します。点燈した状態で、そのメモリーに記憶されている群番号の待ち受けがセットされます。メモリー0の待ち受けの場合は、“-”マークのランプが点燈、消燈します。どのマークがどの待ち受けになっているか、動作させて確認しておくとい良いでしょう。免許番号での待ち受けは、バイキン・マンでは群番号の待ち受けと同時にできるようになりました。免許番号で待ち受けたい場合、その免許番号を自分の免許番号にセットし、待ち受け設定のとき“C”キーを押します。

M + CALL + C = → + マークが点燈、消燈する。(免許番号 点灯時が待ち受け設定)

また、特殊群番号の待ち受けの場合は下記の要領で設定します。

M + CALL + CALL	= →	A マークが点燈、消燈します。	Aコード	”
M + CALL + HOLD	= →	b マークが点燈、消燈します。	bコード	”
M + CALL + M	= →	L マークが点燈、消燈します。	Lコード	”

- M + CALL + マイクREMOTE = → H マークが点燈、消燈します。Hコード 〃
- M + CALL + マイクSHIFT = → P マークが点燈、消燈します。Pコード 〃
- M + CALL + マイクEND = → E マークが点燈、消燈します。Eコード 〃

待ち受けのセットが終わったら、本体の **END** キーを押して設定モードを終わります。また、6秒間入力がなかった場合、自動的に設定モードを終わります。いずれの場合も点燈した状態で待ち受けセットとなります。また、自分で最後に表示した群番号は、上記の操作に関係なく常に待ち受け状態となります。メモリー0からメモリー9まで免許番号と特殊群番号で、あわせて17局待ち受けです。

8. 群番号すいとり機能 (群番号解読の時、表示された群番号を、自分のメモリーにコピーすることができます。コピーしたい群番号が表示されたら、以下の操作を行います。)

HOLD + **HOLD** = → **COPY** + **0** から **9** 又は **C** (0の場合) = → **COPY0**

この例では、メモリー0に、コピーしていますが、以前に記憶されていたメモリーは、消されます。消してもいいメモリーナンバーを選んで押してください。

また、バイキン・マンでは、一時的に使用したいが、メモリーには採っておかなくても良い場合、**C** のキーが使用できます。次にリセットした場合、この群番号は失われます。モニターからの割り込み通話などのとき便利です。

《ワンポイント》

次のような場合使用します。

ある日、車で移動中、モニターサーチを掛けていたら、お馴染みの「Aさん」の変調が聞こえました。「いやあ！ルートO×△はガッチャマンで大QRだァ〜！」(注意：マンガのガッチャマンではない)(ゲゲッ！O×△って、いま走っているルートだ!)ふと無線機を見ると、いつもの群番じゃない。(ありゃ、詳しくQRレポート欲しいけど、群番違いじゃ失礼だし……)

=>はい、こんな時には群番吸い取りで、「C」を使いましょう。

HOLD + **HOLD** + **C** = → **Aさんと同じ群番**。そして、PTTを握って「Aさん、ひさかたぶり〜。ガッチャマン どこで?」[ガッチャマンは、8チャンネル〜などと言わない事]「おや、Bさん。えっとQRの先頭は●■▲だよ!滑りセーン!」(なーんだ、反対方向かァ、レポートあんがとー、移動お気をつけて!)「はいは〜い、FBにおかせぎくださ〜い」……

=> **END** = → **元の群番号**! (この時、Aさんの群番は跡形もなく消えます。)

9. チャンネル指定機能 (チャンネルの指定が、キー入力により行えます。)

例 50CHにセットする。 **C** + **5h** + **0** + **MON** = → **0 50**

例 123CHにセットする。 **C** + **1M** + **2M** + **3M** + **MON** = → **0 123**

CHが2桁の場合、キー入力も2桁で行えます。

10. チャンネルメモリー機能 (チャンネルの、メモリー、呼び出しができます。バイキン・マンは、10個のチャンネルメモリーを持っています。)

○メモリーする。

まず、記憶させたいCHに、セットします。

例 100CHにセットする。 **C** + **1M** + **0** + **0** + **MON** = → **0 100**

100CHでモニター状態となります。その後、例としてCHメモリー1に記憶します。

M + **HOLD** = → **oCH5Et** + **1M** = → **o5EC-1** 100CHがCH

メモリーにセットされました。

また、通話状態(レディ)のとき、そのCHをメモリーしておきたい場合には、上記操作のほかに、以下に示す方法でも行えます。(50CHで通話していたとします。)

MON = → **oCH5Et** + **2M** = → **5EC-2** 通話していた50CHがCHメモリー2にセットされました

○メモリーしているCHに移る。(メモリーを呼び出す。)

先程、CHメモリー1に入れた、100CHを呼び出してみます。

$\boxed{M} + \boxed{MON} = \rightarrow \boxed{05EE--} + \boxed{1M} = \rightarrow \boxed{0000} \quad 100CHでモニター状態となる。$

また、CH設定と似た方法でも行えます。CHメモリー2を呼び出してみます。

$\boxed{C} + \boxed{2M} + \boxed{MON} = \rightarrow \boxed{050} \quad 50CHでモニター状態となる。$

ここで注意する点は、CH指定のときは、2、または3桁入力でしたが、1桁入力の場合は、CHメモリーの指定と解釈します。メモリーセット、呼び出しとも、0から9までの10CHのCHメモリーが使用できます。リセット、モニター、レディ、送信中のいずれの場合からでもCHの移動が瞬時に行えます。また、設定した時のモードも同時に記憶しています。CHメモリー呼び出し時にも、そのモードに自動的に移ります。

11. 自局免許番号機能 (現在使用している自局の免許番号を表示させます。)

$\boxed{HOLD} + \boxed{HOLD} = \rightarrow \boxed{COPY--} + \boxed{MON} = \rightarrow \boxed{d-0000}$

右記のように、3回にわけて表示されます。

↓ $\boxed{d-0000}$

どうやら、私の機械には、ATIS ROMが入っていないようです。↓

↓ $\boxed{d-0000}$

12. 相手局免許番号表示機能

受信した、ATIS信号の中の免許番号を表示させます。

$\boxed{HOLD} + \boxed{HOLD} = \rightarrow \boxed{COPY--} + \boxed{CALL} = \rightarrow \boxed{n-16Cd}$

この人は、ちゃんとATISの中に免許番号が

↓ $\boxed{n-2214}$

あるようです。でも少しおかしいかな??

↓ $\boxed{n-3483}$

13. 相手局免許番号吸い取り機能

受信した、ATIS信号の中の免許番号を自局のものにしてしまいます。

$\boxed{HOLD} + \boxed{HOLD} = \rightarrow \boxed{COPY--} + \boxed{HOLD} = \rightarrow \boxed{c-16Cd}$

吸い取った免許番号を表示します。

↓ $\boxed{c-2214}$

先程のちょっとおかしい免許番号をいただきました。

↓ $\boxed{c-3483}$

14. 免許番号製作機能

自局の免許番号を作りだしてしまいます。

$\boxed{M} + \boxed{マイREMOTE} = \rightarrow \boxed{n-} + \boxed{1M} + \boxed{2M} + \boxed{3M} + \boxed{4A} = \rightarrow \boxed{n-1234}$

$= \rightarrow \boxed{n-} + \boxed{5h} + \boxed{6L} + \boxed{7H} + \boxed{8P} = \rightarrow \boxed{n-5678}$

$= \rightarrow \boxed{n-} + \boxed{9E} + \boxed{CALL} + \boxed{HOLD} + \boxed{M} = \rightarrow \boxed{n-9ABC}$

これで、免許番号は、123456789ABCとなりました。キー入力の際のアルファベット入力は、群番号の場合と同じです。お互いにパイキン・マン 同士ですと、電話番号なども1回のATIS信号で送れます。各自、活用方法などを考えてみてください。

なお、くれぐれも悪用しないでください!!

15. HOLDキーで設定、解除ができる機能

信和製の無線機は初代905Gより、このHOLDキーが重要な機能として今に受け継がれています。

●HOLDの操作方法 その1 -HOLD+5~8及びその他

HOLD を押しますと **056789** の様な表示が表れます。これは群番ではありません。

↑この時、表示の左端の桁は数字の表示となっています。現在のモードです。
この点について注目しておいてください。

この状態から、HOLD 1回目でセット、解除できる機能の操作が行えます。

●HOLDの操作方法 その2 -HOLD+1~4について

上記に続いて、1~4のキーを押しますと、今までモードが表示されていた部分が、Hに変わります。

本機は、機能が増えたため、HOLD 1~4は二段設定になっています。

HOLD 1~4まで、それぞれに1~4のセットを設定しています。

HOLD + **1M** → **H1** ←モードの表示だった左の桁に、Hの文字が表示されます。この時、二回目のキーを受け付けます。また、“END” キーで中止できます。

HOLD + **2M** → **H2**

HOLD + **3M** → **H3**

上記と同様に、1つのキーの中に、4つの機能がセットされるようになっています。

HOLD + **4A** → **HSub**

このモードは、無線機能とは離れた設定をします。
(ゲーム、目覚ましなど)

●HOLD二段操作の例 (素早く続けて操作します。)

HOLD → **0** = HOLD+5~9は、セットなし。

1M → **H1** = HOLD+1のなかは、セットなし。

1M → **H11** = HOLD+1+1が、セットされた。

3M → **H113** = HOLD+1+3が、セットされた。

1M → **H13** = HOLD+1+1が、解除された。

END → **0群番号表示** = HOLDの作業から抜けた。

上記のような操作手順により、HOLD 2段セットを行ないます。

●スペシャル機能をすべてOFFとする

バイキン・マン を早く使いこなしていただくためには、一つ一つの機能を十分理解していただくこととおもいます。そこで、すべての機能をOFFとしてから操作されるとよいでしょう。

HOLD → **056789** = 5~9のどれかが表示されている場合、そのキーを押して表示を消します。

END → **0群番号表示** = 5~9のすべてが消えたところで“END” キーを押しますと、HOLDの操作から抜けます。

上記と同様に、二段目HOLDの機能もOFFにしてから使用されるとよいでしょう。

HOLD + **1M** → **H11234** = HOLD+1の中のどれかが表示されている場合、そのキーを押して表示を消します。

END → **0群番号表示** = HOLD+1の中がすべて消えたところで、“END” キーで、HOLDの状態を抜けます。

HOLD + **2M** → **H21234** = HOLD+2の中の場合も同様に行います。

以上の操作を、HOLD+3についても行いますと、とりあえず設定解除のできるスペシャル機能については、すべてOFFとなります。

16. A T I S 信号カット機能

PTTを握った時、離れた時、1分に1回送信されるA T I S信号を止めてしまう機能です。

HOLD + **5h** → **05** セット **HOLD** + **5h** → **0** 解除
セットされていても、リコールの時は送信されますので呼び出しはできます。

17. 群番号の解説機能

受信したA T I S信号の中の群番号を表示させます。

HOLD + **6L** → **06** セット **HOLD** + **6L** → **0** 解除

なお、ノーマル機のA T I S信号を受けた時、相手が通話制限などで残り時間のデータを送信している場合、その残り時間を表示します。ただし、同一の群番号の時のみです。表示のでかたなどは、ノーマルの取り扱い説明書を参照してください。

18. プライオリティ機能(留守番機能)

CHメモリー0にセットしたCHに誰かが出てきた時に、“C-MEM”のランプを点滅させると同時に、“ビー”と動作音を出して使用中であることを知らせます。

約1分に1回、瞬間的にそのCHを受信して判断しています。リセット、通話受信、モニター中に動作します。(送信、サーチ中は行いません。)

HOLD + **7H** → **07** セット **HOLD** + **7H** → **0** 解除

《ワンポイント》

もっと便利に使う方法

1. 予めCHメモリー0には、自分のワッチしたいCHをメモしておきます。プライオリティは解除のままにします。ワッチCHを例として80CHにしましょう。
2. 50CHの良く知っているローカルさんに呼ばれました。面白そうなので、ブレイクインしました。この時、初めてプライオリティをセットします。
3. しばらくダベっていると、“C-MEM”のランプが点滅しました。誰か80CHに出てきています。
4. 「誰か呼んでるから、ショート×!」としゃべって、おもむろに本体の“END”キーを2回押します。
5. と?あ〜ら不思議、80CHでモニター状態になりました。でも全然知らない人みたいです。
6. 「ちェ!しらね〜やつか」と、また、おもむろに“END”キーを2回押します。
7. おやおや?ちゃんと元の50CHに戻ってきました。
という具合に活用します。どこかのCHに移ってからセットするところがミソです。

注意点 “END”キーでモニター移動するため、HOLD+8と一緒にセットできません。
“C-MEM”のランプ点滅機能だけを見る場合は可能です。(HOLD+8を優先する場合があります。)

19. 解説群番一発モニター機能

リセット中に解説された群番のCHに、即モニターできる機能です。解説表示中に本体の“END”キーを押してください。解説された群番号が呼び出したCHをモニターできます。

HOLD + **8p** → **08** セット **HOLD** + **8p** → **0** 解除

《ワンポイント》

実際の操作法

1. HOLD+6をセットします。(群番が見えなければ話しになりません。当然群番解説セットです。)
2. HOLD+8をセットしたら、リセット待機します。
3. 混雑している地域では、めまぐるしい程、群番が変わってゆくでしょう。
4. キャッチしたい群番が「出たッ!」その瞬間に、本体の“END”キーを押します。
5. 捕まえた群番がリコールか呼び出しをしたCHに、モニター状態で飛び込んでいるはずですが。
6. “PTT”を押せば、キャッチしたその群番号で通話が始まります。

注意点 プライオリティ(HOLD+7)とは、なるべく同時にセットしないでください。

20. 制御信号妨害機能

制御CHのATIS信号に妨害を与える機能です。信号に合わせて混信を与えますのでリコールが打てなくなりはしません。リセットの時だけ動作します。

HOLD + **9E** → **0 9** セット **HOLD** + **9E** → **0** 解除

《ワンポイント》

制御信号妨害機能の注意点

1. 連続リコールなどの場合は、タイミング的に合わせきれず、捕まえそこねが発生します。
2. 都心部では、非常に多くの制御信号が飛び交っています。ですから、全体の送信に占める時間も長くなりますので、発見される可能性も大きくなります。また送信している訳ですから、終段モジュールの劣化も激しくなります。いずれにせよ、長時間の妨害はやめましょう。

21. スキャンスピード切替機能

モニターサーチのスピードを変えます。セットで約80CH/8秒、解除で約80CH/3秒です。

HOLD + **1M** + **1M** → **H 1 1** 解除側（表示しない）が高速です！！御注意下さい。

22. 連続モード切替機能

モニターサーチの時、1回転してCHの最初になると、モードを一つ進めます。これにより、すべてのモードがつながったようになり、サーチを行います。

HOLD + **1M** + **2M** → **H 1 2**

23. メモリースキャン機能

CHの順番のスキャンではなく、CHメモリーのスキャンを行います。バイキン・マンには10個のCHメモリーがありますが、CHメモリーについては、3ページを参照下さい。
連続モードがセットされている場合、各モードごとの各CHをサーチしてゆきます。解除の場合は、各CHメモリーが記憶しているモードに順次切り変わります。

HOLD + **1M** + **3M** → **H 1 3**

24. 空きCHサーチ機能

スキャンを空いているCHで止めるようにします。あくまで機械の空きCHレベルにより判断しますので、遠くで利用している場合、また、ブレイクタイムの時などで使用中のCHで止まることもあります。

HOLD + **1M** + **4A** → **H 1 4**

25. 全モード待受機能

すべてのモードの制御CHをリセット中にスキャンしながら待ち受けします。一度に8つのCHを聞いている訳ではないので、着信率は悪化します。モードが切り変わる状態を先頭の桁に表示します。
全モード待ち受けをしている局を呼び出す時には連続リコールを使用してください。

HOLD + **1M** + **2M** → **H 2 1** → **0 群番号表示** … **2 群番号表示**

26. スペシャルサーチ機能

モニターサーチをする際に受信した局と、自分の待ち受けを比較しながら行います。信号の入感するCHでは30秒間ATIS信号を待ちますが、信号が受信できなければ次のCHにサーチを続けます。信号が受信できたら群番号を確認し、待ち受けと違えば次のCHへ移ります。次項の自動リザーブと組み合わせると留守番サーチもできます。

HOLD + **2M** + **2M** → **H 2 2**

27. 自動リザーブ機能

本機には、群番メモリー、CHメモリーの他に、リザーブメモリーを持っています。

リザーブメモリーとは、群番、CHのメモリーとは独立して群番とCHをペアでメモリーしておけます。ここでは、自動的にこのメモリーに機械の判断でデータを記憶させてしまう機能です。

以下の(一致群・全群)機能と組み合わせて使用します。

HOLD + **2M** + **3M** → **H2 3**

なお、次に示す全群、一致群番号のリザーブ機能はこの機能がセットされて始めて使用できます。

リザーブメモリーは、全部で8個ありますが、9個目を記憶させると1個目が消えてしまいます。

14ページに、リザーブメモリーについての詳細を記していますので、そちらを参照ください。

28. 全群番号リザーブ機能

上記の自動リザーブと組み合わせて使用します。セットすると、リセット中、スペシャルサーチ中に受信したすべての群番号とそのCHをリザーブに記憶してゆきます。

また、解除されている場合は、待ち受けセットされている群番号と一致した信号だけを記憶してゆきます。

HOLD + **2M** + **4A** → **H2 34**

HOLD 3+3、2+4をセットしてリセット待機しますと、群番解読で次々と変わってゆく群番号を、“7”のキーでリザーブを後戻りさせて、そのCHに移動することができます。

29. PTT自動リコール機能

PTTを離れた時に、自動的にリコールを送信する機能です。

次に示すリコールタイマー制限と関係がありますので、以下の項目と組み合わせて使用してください。

HOLD + **3M** + **1M** → **H3 1**

このセットだけの場合ですと、PTTを握って1分以上たたない場合にはリコールをしません。

以下の設定をしますと、このタイマーに関係なく、つねにPTTを離れた時にリコールをします。

HOLD + **3M** + **2M** → **H3 12**

30. タイマーリコール機能

通話中(レディ)、自動的に、1分または3分間ごとにリコールを打つ機能です。

HOLD + **3M** + **3M** → **H3 3**

このセットだけの場合ですと、3分間ごとにリコールになります。以下の設定をしますと、1分間ごとのリコールになります。

HOLD + **3M** + **2M** → **H3 23** (要はいっぱい打ちたい場合“2”をセット)

31. 多群番一括リコール機能

待ち受け指定をしている群番号を、すべてリコールする機能です。待ち受け設定は、7項に記してありますのでそちらを参照ください。呼び出すCHは、リコールを打ったCHになります。

HOLD + **3M** + **4A** → **H3 4**

《ワンポイント》

流れる群番

1. メモリー0からメモリー9までに1桁ずつずらした群番号をメモリーさせます。
2. 待ち受けを0から9まで全てセットします。
3. リコールを打ちますと、まるで群番号が流れていくように見えます。

◎その他の特殊機能 (ノーマルの取り扱い説明書にもありますので参照してください。)

32. 目覚まし時計機能

ノーマルにもある目覚まし時計の機能です。操作方法も同じです。

HOLD + **4A** → **H Sub** + **1M** = → **-**

= → + **C** + **0** + **8p** + **0** + **0** → **08-00**

上記の例では、8時間後に、ピーピーという音を発して、時間になったことを知らせます。無線機の機能に戻るには、マイクの“END”キーを押します。

33. ストップウォッチ機能

ノーマルにある機能と同一です。

HOLD + **4A** → **CH Sub** + **2M** → **00000**

マイクの“PTT”でスタート、ストップ、“REMOTE”でラップ、クリアです。無線機の機能に戻るには、マイク、または本体の“END”キーを押します。

34. フィーバーゲーム機能

ノーマルにある機能と同一です。

HOLD + **4A** → **CH Sub** + **3M** → **-999-**

マイクの“PTT”でスタート、ストップします。無線機の機能に戻るには、マイク、または本体の“END”キーを押します。

35. 拡声器(PA)機能

外部に拡声器用スピーカーをつけた場合、拡声器機能が行えます。

HOLD + **4A** → **CH Sub** + **4A** → **PA-**

PTTを押してマイクに向かって話して下さい。無線機の機能に戻るには、マイク、または本体の“END”キーを押します。

●その他のHOLD機能

36. タイマーカット機能

元々、タイマーを動作させようがさせまいが、バイキン・マンには通話の時間制限はありません。この機能は、単にタイマーを止めるだけではなく、使用状況に応じて機能がさまざまに変化します。

HOLD + **M** → **CUt** タイマーカットON (再度でOFF) **。 E-ON**

同時に、パネルの“T-LIM”ランプが点燈、消燈します。

A. 呼び出し、及び着信の時

タイマーカットがセットされている場合は、補足(呼び出しや着信で表示が点滅している時)の後、自動的にレディモードになります。

タイマー動作セットの場合には、30秒間補足状態のあとリセットします。またはこの間に“HOLD”、“REMOTE”、“PTT”などで、レディモードに固定することもできます。

B. 固定モニターの時 (固定モニターとは、CH指定や、リセットより1回目のモニターキーでなる状態)

タイマーカットがセットされている場合には、リセットしない限りそのCHにいます。

タイマー動作セットの場合には、なにも受信しなくなってから15分間たつと、自動的にリセットします。

C. モニタースキャンの時

タイマーカットがセットされている場合には、入感のあったCHで固定モニターになります。

タイマー動作の場合には、入感のあったCHを15分間傍受し、続けて次のCHにスキャンを続行します。ただし、スペシャルサーチとは違い、ATIS信号を受信してもすぐにCHが変わることはありません。

(スペシャルサーチがセットされていれば、ATIS信号の判断を行います。)

この場合も、“HOLD”、“REMOTE”、“PTT”により、CHを固定することができます。

D. モニターから、群番一致の場合には、5分間の補足状態があります。

タイマーカットがセットされている場合には、レディモードに移ります。

タイマー動作の状態、なおかつスペシャルサーチがONの時には、5分間の補足状態のあと、スキャン状態に戻ります。

タイマー動作の状態の時は、5分間の補足状態から固定モニターに移ります。なお、固定モニターでは、無信号状態のとき、15分間でリセットしますので、なにかの間違いにより呼び出された時でも、トータル20分間でリセットに戻るようになります。

E. リセットから、“PTT”や“CALL” + “なにかのキー”で通話CHに移る時。

タイマーカットがセットされている場合には、特に変化はありません。

タイマー動作の状態では、1回目の発呼信号は送信しません。しかし、2回目にPTTを押す時にだけ、PTTによる自動リコールを行います。この機能により、たまたま開いたCHが使用中であっても、そのままリセットすれば、不要な呼び出しを減らすことができます。

37. 全群番号の待受機能

HOLD + **MON** · **MON** …… → **ALL** **ALL-RLL** **FUN**

A. 呼び出し、リコールを行っているすべての信号に対して受付を行います。

ALL モニターや通話が終わってリセット状態になった時にも表示されます。

B. 待ち受けに入っている群番、免番以外のすべての信号に対して受付を行います。

ALL-RLL (着信拒否) 同様に、リセット状態になった時、表示されます。

C. 通常の待ち受けです。

FUN 解除の状態ですので、リセットになった時は、群番表示になります。

38. セミデュプレックス機能

送信と受信の周波数を別々に設定する機能です。これによりパーソナルで本格的なレピーターも可能でしょう。

HOLD + **MIC END** → **dup** (再度でOFF)

チャンネルメモリー0のCHが受信周波数、メモリー9のCHが送信周波数になります。

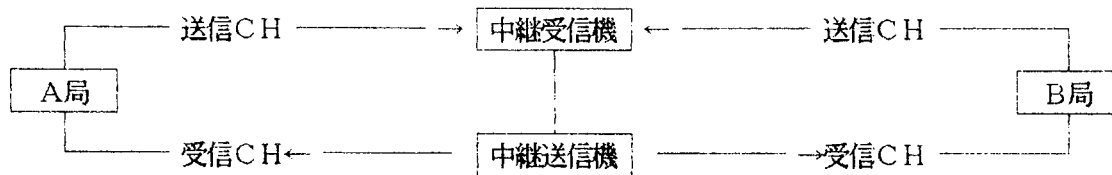
《ワンポイント》

こんな使い方

2局で交信する場合、お互い同士のCHメモリー9と0を入れ替えておけば、モニターされても片方の話ししか聞かれなくなります。3局以上は不可能ですが……

レピーターシステムとは

レピーターとは中継方式の通話を行うものです。送信、受信の周波数が違えば、以下のことができます。



A局から送られた電波は、中継で周波数が替えられ、B局に届きます。B局からA局へも同じ動作になります。中継機は、送信と受信の周波数がずれているため、自分の電波は受信しませんので送受が同時におこなえます。中継機をロケの良い場所に設置すれば、非常に遠距離との交信も安定して行えるようになります。

9. 動作音の変更機能

キーの受付動作音の大きさを変えます。HOLDに続いて、0のキーを数回押すことにより、大、小、消しの状が交互に現れます。

HOLD + **0** + **0** …… → **H** **L** **0**
 動作音大 動作音小 動作音消

40. 群番、CHロック機能

メモリー1に記憶させている群番号、モード、CHでロックをかけます。ただし、送信に移る場合に動作します。それ以外の操作では通常どおり行えます。

HOLD + **C** → (鍵)のランプが点灯します。

通常の動作とは、モニター、リセットなどの無線機の状態から、メモリーの切り替え、CHメモリーに関すること、その他もろもろの操作も受け付けます。

ところが、送信状態になったとたん、すでに変わっているはずの以前の内容に群番、CHとも変更されます。これは、“HOLD” + “C”の操作を行った瞬間に、その内容を別の状態で内部に取り込んでいるからです。一端取り込まれたデータは、再度“HOLD” + “C”でロックを解除するか、死んだふり状態になるまで変更されません。

◎ その他の特殊機能

41. 切断信号

セットしている群番号で切断信号を送信します。ここでいう切断信号とは、自局に暗証コードのない場合のことです。暗証コードが分からないため、すべてに該当するコードの信号を送信します。送信終了まで約2分間かかります。(その間は、自局は交信する事が出来ません)

[M] + **[SHIFT]** → **[CUE]** → / (TX) のランプが点燈し、Sメーターが揺れっぱなしになる。

また、通常の切断信号(通話状態から、自局と同じ暗証コードを持つ局だけをリセットさせる)を送信する場合には、本体側の“END”キーを1秒間以上押します。この場合は、自局の持っている暗証コードのみで送信します。

42. 送信、受信レベル切り替え

5W <-> 0.2W受信感度低減を切り替えます。

[M] + **[MIC END]** → 表示パネルの0.2W TXL が交互に点燈、消燈します。ランプの点燈状態に応じて送信、受信も切り変わります。(ノーマルの説明書参照)
また、通話モードに入れば、マイクの“SHIFT”キーを押すだけで切り替えられます。

43. マイクキーの機能 (マイクのキーの機能は、状況に応じて機能が変わります。)

	REMOTE	SHIFT	END
リセット	表示群番号の切り替え	通話ゾーンの切り替え	前回より、1CH アップしてモニター (押しっぱなしでサーチ) ※1
補 足	そのCHに固定	そのCHに固定	リセット ※2 (押しっぱなしで切断信号送付)
モニター	-1CH ダウン (押しっぱなしでサーチ)	+1モード アップ	リセット
通 話	リコール (押しっぱなしで連続 リコール)	送信出力、受信感度の切り替え	リセット (押しっぱなしで切断信号送付)
送 信	リコール (押しっぱなしで連続 リコール)	温度表示	パワー表示
モニター サーチ	-1モード ダウン	+1モード アップ	サーチ ストップ

※1 リセットから、マイクの“END”キーを押しますと+1CHモニターになりますが、この時にキーを離さずに1秒以上押さえ続けていると、サーチに移ります。

※2 “END”キーで切断信号を送信した場合、“ピリリ・ピリリ”という動作音で知らせます。

44. 切断信号を受信した場合

本機はスペシャルですから、当然受信してもリセットにはなりません。しかし、通話している仲間が全てスペシャル機とは限りませんから、リセットしてしまう可能性があるわけです。そこで、切断信号を受信した場合、次のような表示で知らせます。

[CUE] 同時に“ピッ”という動作音もします。10秒後に群表示に戻ります。この表示がでたなら、すぐにリコールを打って呼び戻してあげるとよいでしょう。

45. 特殊オプション群番号機能

新モードの機種には、新たにA、B、H、L、P、Eなどを頭文字にした特殊群番号がもうけられていますが、実際にはそのような文字のコードの信号が出ている訳ではなく、すべて数字の“0”からアルファベットの“F”までのコードで送られています。

FF000 → E-CODE
F0000 → P-CODE
F0003 → H-CODE
F0005 → L-CODE
F0006 → A-CODE
F0009 → B-CODE

このような構成になっています。規則性とは、先頭が“F”であること、E-CODEを除いて、中が“00”であることのようなのですが、まだ空きがあります。

そこで、バイキン・マン では、勝手に空きのコードにコードネームをつけてしまいました。

F0001	→	N-CODE.....
F0002	→	Y-CODE.....
F0004	→	r-CODE.....
F0007	→	T-CODE.....
F0008	→	G-CODE.....
F000A	→	U-CODE.....
F000B	→	-CODE.....
F000C	→	C-CODE.....
F000D	→	d-CODE.....
F000E	→	F-CODE.....
F000F	→	O-CODE.....

↑各自で好きなコード名をつけてください。↑

これらの群番号は、あらかじめメモリーにある訳ではなく、そのコードに該当する群番号を打ち込むと、上記のように表示されるものです。

入力例 (M) + [メモリーさせるNo.] + (C) + [MIC END] + (0) + (0) + (0) + [末尾]
 末尾に該当する部分に、0～Fの文字にあたるキーを押せば、上記に記してあるコードが表示されるはずです。
 特に、Y-CODEなど、どんな通信目的に使用されるかは、推して知るべし。大いに利用してください。
 また、他の機種では当然表示されませんので、あまり意地をはらないように……

○ 数字キーについて

数字キーは、ノーマルの場合、待ち受けの設定、解除をダイレクトに入力するために使用されましたが、バイキンマン SFXでは完全16面待ち受けのため、キーが足りずに別方法となっています。
 数字キーについては、GIII だいじょぶだぁ〜 に準じています。

(1M) から (6L) のキーには、CH及びモードを動かす機能があります。

(7H) から (0) のキーには、リザーブに関する機能があります。

キーパネルの各機能		
現在のCHより -1CHダウン (1 M) 押しっぱなしでサーチ	現在のモードより +1モードアップ (2 M)	現在のCHより +1CHアップ (3 M) 押しっぱなしでサーチ
現在のCHより ハーフCHダウン (4 A) 押しっぱなしでサーチ	現在のモードより -1モードダウン (5 h)	現在のCHより ハーフCHアップ (6 L) 押しっぱなしでサーチ
リザーブを ひとつ戻す (7 H)	リザーブを 呼び出す (8 P)	リザーブを ひとつ送る (9 E)
リザーブに 記憶させる (0)	(C)	(M)

バイキン・マン では、アップサーチ、ダウンサーチの他に、ハーフでのサーチも可能になっています。
 本体の (4A) または (6L) のキーを1秒以上押しっぱなしにしてみてください。

また、マイクのキーや、本体の (1M)、(3M) などで、同様に1CHづつのサーチもできます。
 そのほかの機能的な面は、ほとんど「GIII だいじょぶだぁ〜」と同等です。

《ワンポイント》

こんな使い方

CHがハーフずつ移動できることを利用して、他の無線機が周波数がずれていた場合、基準となる周波数より、高いのか、低いのか簡単なチェックができます。
ただし、バイキン・マンの周波数をきちんと合わせておく必要があります。

◎ C H について

キー操作によるCH設定の場合は、00CH~159CHまで可能です。

後ろに添付してあります。「チャンネル一覧表」を見ていただければ分かりますが、本機には今まで新モードの無線機では出られなかったCHに送信、受信が可能となりました。

00CH→01CH(制御CH)と02CHの間です。

159CH→80CHのハーフ上です。

上記と同じく、ダウンモードの80CHと、ノーマルの制御CHの間は、25KHzのスペースがあります。

(モニタースキャンの場合は、制御CHの01CHは受信しません。)

ただし、制御CH(01CH)の送信はできません。また、モード5, 6, 7は、極度に周波数が離れているため、無線機本体の性能により、送信できない場合があります。また、送信していても、安定した電波であるかは不明です。このため、この周波数帯での送信は極力行わないでください。終段パワーモジュールの故障の原因ともなります。

◎モードの切替機能

モードの切り替えは、**2M** または、**5h** のキーを使用して瞬時に切り替えられます。

操作は、リセット中、モニター、レディ、送信中、いずれからでも可能です。

◎チャンネルの切替機能

CHの切り替えもモードと同様、**1M**、**3M**、**4A**、**6L** のキーで瞬時に切り替えられます。

《ワンポイント》

最近の900MHz帯の様子

パーソナル無線も、もう7年の歴史がありますが、最近になって特にOFFバンドに対する取り締まりが強化されてきているようです。驚くことは、このバイキン・マンのバンドの状態で、6, 7モードあたりで自動車電話が入感してくることです。

自動車電話は、もっと下の周波数から割り当てがあるはずですので、このあたりの周波数まで使用していると、相当の加入者数になっているものと思われます。うらをかえせば、それだけお金をかけて電波を使用している局が多くなってきているということです。

このため、多大の費用をつかって運用している局が多くなるため、特にパーソナル無線のOFFバンドに対する取り締まりが厳しくなっています。

なにしろパーソナルは、彼等にとってはただの遊びですから。各自十分自覚をもって、このバイキンマンSFXを運用してください。取り締まりなどには、十分注意しましょう。

モード 0	— ノーマルモード	————— 903~905MHz	— ノーマル
1	— ダウンモード	————— 901~903MHz	—
2	— Wダウンモード	————— 899~901MHz	— 現在割当なし
3	— トリプルダウンモード	————— 897~899MHz	—
4	— フォースプライベートモード	————— 895~897MHz	—
5	— ファイブプライベートモード	————— 893~895MHz	—
6	— シックスプライベートモード	————— 891~893MHz	— 自動車電話がぼちぼち使用中
7	— どん底モード	————— 889~891MHz	—

《ワンポイント》

無線機の基本的性能について

7年間の間に、各社から色々な機種が発売されましたが、最近の無線機の傾向としては、「以前に比べて、耐久性、余裕度が無くなった」ことが目につきます。

メーカーも「この程度ならまあ使える」というノウハウが蓄積されて、定価設定も下げたいために個々のパーツなども、性能に影響のない部分から徐々に安価なものに切り替えられてきています。

(ここがいう“安価”とは、メーカーにとって“安価”であって、大量発注すれば非常に値が下がるパーツの変更が多いようです。逆にいうと“オーダーメイド”ですから、一般的には入手が困難になる場合があります。VCOユニット、パワーモジュールなど保守の面からすると、後々高くつく場合が多い様です) おかげで、送信できるバンドは狭くなり、耐熱性の低いパワーモジュールになってしまいました。このことを十分理解して運用して下さい。

4モードからパワーが出なかつたり、すぐにモジュールが壊れるのは私のせいじゃありません。メーカーが悪いんです。

◎ リザーブメモリー機能

○ リザーブメモリーとは、一種の裏メモリーです。群番、モード、チャンネルをメモリーして 7 · 8 · 9 のボタンの操作で瞬時にCHを移動する事が出来る機能です。

- A. 普通のメモリー(“REMOTE”キーで切り替える)とは、全く別のものです。
- B. このメモリーに入っている群番では、待ち受けは出来ません。
- C. 群番、CH、モードがワンセットになっています。群番だけ、CHだけなどの変更はできません。
- D. ワンタッチで、記憶させられます。
- E. ワンタッチで、記憶させた状態に飛び移ります。(周波数、群番がいつぱんで切り変わる。)
- F. リザーブできる数は、8個までです。9個目を入れますと最初の1個が消されてしまいます。あらかじめセットしておき、CHからCHへ、瞬時のQSY(CH移動)に、また多数のグループとの掛け持ちQSOも、らくらく、OKです。

○ リザーブメモリーの使い方としては、以下の4通りがあります。

- A. リセット待機中、呼ばれた群番、CH、モードを記憶して、リセット状態を続ける。
- B. リセット待機中、群番解読で、次々表示される群番をためておき、希望の群番号のところまで後戻りさせる。
- C. モニターサーチを行い、待ち受けと同じ群番を見つけたら、その群番、CH、モードを記憶してスペシャルサーチを続ける。
- D. 自分であらかじめリザーブメモリーに記憶しておき、そのCH間を自由に行き来する。
以下に、それぞれの機能の組み合わせ方法を例として記します。
なお、スペシャル機能には、すべてOFFの状態からセットするものとします。
また、群番号のメモリー及び、待ち受けの設定はされているものとします。

○1 リセット中の留守番機能

まず、タイマーは動作させます。 CALL + M → 0 1-00 (CUIの表示の場合は再度行う。)

自動リザーブ機能をONにします。 HOLD + 2M + 3M → 42 3

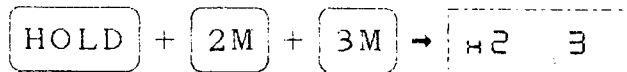
以上をセットしてリセット待機すれば、自動的に呼び出しを受け30秒後に、その群番、CH、モードを記憶し、リセット状態に戻ります。

7H のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

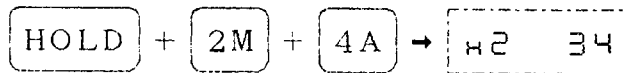
希望する群番号の表示された時に、 8P のキーを押しますと、そのCHに移ります。

○2 リセット中の群番戻し機能

自動リザーブ機能をONにします。



全群番号をリザーブ機能をONにします。



群番号解読機能をONにします。



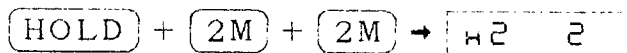
以上をセットしてリセット待機すれば、次々表示されてくる群番号を後戻りさせて、そのCHに行くことができます。ただし、9個以上前の信号は戻りません。

7H のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

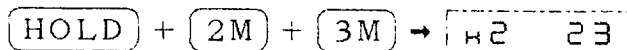
希望する群番号の表示された時に、**8P** のキーを押しますと、そのCHに移ります。

○3 スペシャルサーチリザーブ機能

スペシャルサーチ機能をONにします。



自動リザーブ機能をONにします。



群番号解読機能をONにします。



以上をセットして、モニターサーチをかければ、待ち受け群番号と同じ群番のCH、モードを記憶して行きます。なお、リセットをかけるまで行いますので、出かけている間に、仲間のいるCHを調べておけます。ただし、9個以上前の信号は戻りません。

7H のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

希望する群番号の表示された時に、**8P** のキーを押しますと、そのCHに移ります。

◎ リザーブのしくみ

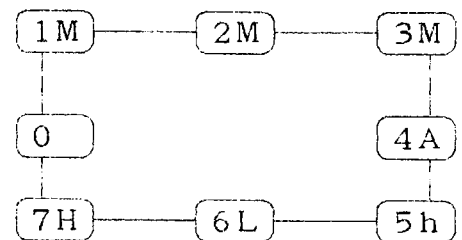
リザーブメモリーには、0～7までのナンバーがついています。

7H のキーで、出入できるリザーブを一つ戻します。 ↑

0 のキーで、使用中のCH、群番をリザーブします。 →

8P のキーで、リザーブを呼び出します。 ←

9E のキーで、出入できるリザーブを一つ進めます。



リザーブ関係の操作を行った場合、**c= =c** と表示がされます。

これは、現在中央に表示されたナンバーのリザーブに入出力可能という意味です。そして、そのリザーブに記憶されている群番号の表示をします。

メモリーのナンバーを示す所が、“r”の文字になります。(例 12345) → **r12342**

3秒後に、通常の群番号の表示に戻ります。(例 MO-00000) → **000000**

☆ リザーブの手動メモリー、リザーブにメモリーしたい、群番、CH、モードに移動します。

7H と **9E** のボタンでメモリーしたいナンバーを呼び出します(0から7まで)

0 を押すと、そのNoに記憶されます。

注意：自動リザーブを作動させるとメモリーしたリザーブは消えます。

◎ リザーブを呼び出す

普通の状態、**7H** と **9E** のキーを押すと、**CH 0** のような表示が出て群番号が出ます。

ただし、上の中央の数字は、現在のリザーブのナンバーを表していますので、0～7までのどれかです。

7H と **9E** のキーで、呼び出したいリザーブNo. または、群番号が表示された時に、**8P** のキーを押します。

すると、リザーブされていたCHに移ります。また、PTTを押すと、自動的にリザーブされていた群番号になっています。

通話が終わってリセットしますと、リザーブを呼び出す前の群番号にもどります。

リザーブを呼び出しても、0～9のメモリーは壊されることはありません。

~~~~~ メ モ ~~~~~

→ 切り取ってお使い下さい

◎ HOLD の機能一覧表

|                                                                  |                                              |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <b>HOLD</b> + <b>1</b> + <b>1</b> = ON → スキャンスピード低速              | <b>HOLD</b> + <b>4</b> + <b>1</b> = 目覚まし時計機能 |
| <b>HOLD</b> + <b>1</b> + <b>2</b> = ON → 全モードスキャン                | <b>HOLD</b> + <b>4</b> + <b>2</b> = ストップウォッチ |
| <b>HOLD</b> + <b>1</b> + <b>3</b> = ON → メモリスキャン                 | <b>HOLD</b> + <b>4</b> + <b>3</b> = フィーバーゲーム |
| <b>HOLD</b> + <b>1</b> + <b>4</b> = ON → 空きCHスキャン                | <b>HOLD</b> + <b>4</b> + <b>4</b> = 拡声器      |
| <b>HOLD</b> + <b>2</b> + <b>1</b> = ON → 全モード待ち受け                | <b>HOLD</b> + <b>5</b> = ON → ATIS信号カット      |
| <b>HOLD</b> + <b>2</b> + <b>2</b> = ON → スペシャルサーチ                | <b>HOLD</b> + <b>6</b> = ON → 群番解読           |
| <b>HOLD</b> + <b>2</b> + <b>3</b> = ON → リザーブ機能ON                | <b>HOLD</b> + <b>7</b> = ON → プライオリティあり      |
| <b>HOLD</b> + <b>2</b> + <b>4</b> = ON → 全群番号リザーブ                | <b>HOLD</b> + <b>8</b> = ON → 解読一発モニターあり     |
| <b>HOLD</b> + <b>3</b> + <b>1</b> = ON → PTTリコール1分               | <b>HOLD</b> + <b>9</b> = ON → 制御信号妨害         |
| <b>HOLD</b> + <b>3</b> + <b>2</b> = ON → PTTリコール1分<br>ON → 1分に1回 | <b>HOLD</b> + <b>C</b> = ON → CHロック          |
| <b>HOLD</b> + <b>3</b> + <b>3</b> = ON → タイマーリコール                | <b>HOLD</b> + <b>M</b> = ON → タイマーカット        |
| <b>HOLD</b> + <b>3</b> + <b>4</b> = ON → 多群番リコール                 |                                              |

山折り

|                                                  |                                                  |
|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| <b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>0</b> から <b>9</b> | = 群番号コピー                                         |
| <b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>HOLD</b>          | = 免許番号吸い取り                                       |
| <b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>MON</b>           | = 自局の免許番号表示                                      |
| <b>HOLD</b> + <b>HOLD</b> + <b>CALL</b>          | = 相手の免許番号表示                                      |
| <b>HOLD</b> + <b>MON</b>                         | = 全群番号待ち受け → 着信拒否(待ち受け中、群番号及び免許番号のみ) → 待ち受け群番号だけ |
| <b>HOLD</b> + <b>MIC END</b>                     | = ON → セミデュプレックス OFF → シンプルックス(ノーマル)             |
| <b>HOLD</b> + <b>END</b>                         | = HOLD機能設定途中からの設定操作キャンセル                         |

谷折り

◎ M キーの機能一覧表

|                                               |                          |
|-----------------------------------------------|--------------------------|
| <b>M</b> + <b>0</b> から <b>9</b>               | = メモリーの指定及び呼び出し          |
| <b>M</b> + <b>HOLD</b> + <b>0</b> から <b>9</b> | = チャンネルメモリーの書き込み         |
| <b>M</b> + <b>MON</b> + <b>0</b> から <b>9</b>  | = チャンネルメモリーの呼び出し         |
| <b>M</b> + <b>CALL</b> + <b>0</b> から <b>9</b> | = メモリー0からメモリー9の待ち受け設定、解除 |
| <b>M</b> + <b>CALL</b> + <b>C</b>             | = P-CODEの待ち受け設定、解除       |
| <b>M</b> + <b>CALL</b> + <b>M</b>             | = H-CODEの待ち受け設定、解除       |
| <b>M</b> + <b>CALL</b> + <b>HOLD</b>          | = L-CODEの待ち受け設定、解除       |
| <b>M</b> + <b>CALL</b> + <b>CALL</b>          | = A-CODEの待ち受け設定、解除       |
| <b>M</b> + <b>CALL</b> + <b>MIC REMOTE</b>    | = B-CODEの待ち受け設定、解除       |
| <b>M</b> + <b>CALL</b> + <b>MIC END</b>       | = E-CODEの待ち受け設定、解除       |
| <b>M</b> + <b>MIC REMOTE</b> + 12回のキー入力       | = 免許番号の書き換え              |
| <b>M</b> + <b>MIC SHIFT</b>                   | = 強制リセット                 |
| <b>M</b> + <b>MIC END</b>                     | = 送信、受信レベル切り替え           |

山折り

◎ MON キーのCH指定方法

- MON** リセットの場合は、前回使用のCH モニターの場合は、スキャン
- M** + **0** から **9** + **MON** = メモリーCHの呼び出し
- ▲ **C** + **0** から **9** の数字キー2桁(3桁) + **MON** = キー入力のCHへ設定
- [例] 20チャンネルの場合
- C** + **2** + **0** + **MON** = 20CHへ固定(モニター)
- ▲ **C** + **1** + **0** から **9** の数字キー2桁 + **MON** = キー入力のCHへ固定
- [例] 110チャンネルの場合
- C** + **1** + **1** + **0** + **MON** = 110CHへ固定(モニター)

◎ CALL キーの機能

リセット状態では、自動呼び出し。その他の状態では、CH表示

切り取り線

切り取ってお使い下さい